

王塚古墳



王塚古墳の一般公開は春(毎年4月第3週土日)と秋(古代の謎フェスティバルと同日)の年2回。上記期間外や埋蔵品及び王塚古墳に関する展示・説明は、王塚装飾古墳館でご覧いただけます(常設展示は有料)。王塚古墳石室の原寸大復元レプリカは、本物の古墳では見ることのできない石室内部まで入れ、古墳を造った当時の人々と同じ目線で石室内部を見学できるので、一見の価値あり!



王塚装飾古墳館に
しまったかなー！

うわー！
古墳の中身が
飛び出したー！



ツルハシの先にあったもの
昭和9年当時、筑豊一帯では石炭産業が盛んで、石炭採掘による鉱害復旧に使用する土砂採掘が寿命地区にある小高い小山で行われていました。土砂採掘を始めて2ヶ月経った9月30日、一人の工夫がツルハシを打ちおろすとポツカリと穴が開きました。

1300数十年の眠りから王塚古墳が目覚めた瞬間でした。ツルハシが開けた穴は、王塚古墳の石室

内に通じており、その後の本格的な調査によって石室の大きさや古墳内全面に描かれた美しい彩色壁画は、人々を驚かせました。王塚古墳は、発見から幾多の崩壊の危機に合いました。しかし、地元住民をはじめ、有志や考古学に

関心の深い人々の情熱と努力に守られ、昭和27年3月29日に国の特別史跡第1号に指定され、桂川町及び国の宝として今日に至っています。

ツルハシの先にあったもの 王塚古墳発見のストーリー



王塚古墳発見時の古墳入口の写真

昭和10年最初の壁画模写を行う伊勢画伯(写真左端)ら調査団

